

熊本県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要

【小中学校】

- 中央研修を修了した英語教育推進リーダー（以下「推進リーダー」という）が、研修参加教員に対し外部専門機関と連携して2時間×7セットの研修実習（中核教員研修）を行う。
- 中核教員研修修了者は、各管内で実施する「英語担当者指導法研修会」において、研修内容を生かした授業実践を紹介し、管内での研修内容の共有化を図る。
- 推進リーダー及び中核教員研修修了者は、各勤務校で計画的に校内研修を行い、研修成果を自校の英語担当教員と共有するとともに、自身の英語力向上について、その成果を外部検定試験の受験結果で検証する。
- 小学校英語教育フォローアップ研修、中学校英語教員ビルドアップ研修において、推進リーダーによる演習等を実施する。

【高等学校】

- 推進リーダー1人につき英語教員20人程度に対し、2時間×7セットの研修実習を行う。また、研修参加教員は各勤務校で計画的に校内研修を行い、研修成果を自校の英語担当教員と共有する。さらに、自身の英語力向上について目標設定・進行管理を行い、その成果を外部検定試験の受験結果で検証する。

研修実習の他、研修協力校等を会場に、大学等の外部専門機関から講師を招聘し、英語教員の指導力向上に資する講演会や研修会を適宜実施する。

以上、県教育委員会は、外部専門機関と連携しながら、推進リーダーの育成とともに、公立小中学校及び高等学校の英語担当教員の英語力及び指導力向上に向けて、目標設定・進行管理を適切に行いながら中・長期的な視野で研修体系の構築を図る。

外部専門機関としては、主に熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学等の県内大学を考え、現在調整中である。ただし、必要に応じてH27年度同様に、国際教育交換協議会（CIEE）等の機関を通じて、県外からの講師招聘も行う。

（概要図：別紙1＜小中学校＞、別紙2＜高等学校＞）

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【小中学校】

公立中学校の英語担当教員のうち、求められる英語力の指標である英検準1級以上等を所有する教員の割合は28.4%（平成27年12月現在）で、全国平均（26年度）の28.8%を下回っている。

また、授業における英語担当教員の英語使用状況が50%以上である割合は61.9%で、全国平均（平成26年度）の48.9%を上回っているが、今後、次期学習指導要領では、中学校においても高等学校と同様に、英語の授業は「英語で行うことを基本とする」ことが予定されていることから、その割合を更に向上させる必要がある。

こうした状況を踏まえ、平成29年度の到達目標を次のように設定し、平成28年度から段階的に目標を設定・管理する。

【H27 現状値】（「平成27年度英語教育実施状況調査」より）

- ① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合【28.4%】
- ② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合【26.0%】
- ③ 「Can-Doリスト」の形式による学習到達目標の整備状況
設定【99.2%】公表【17.9%】達成状況の把握【60.2%】

④ 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 50%以上【76.9%】

⑤ 授業における英語担当教員の英語使用状況 50%以上【61.9%】

【H29 目標値】

① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合【50.0%】

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合【50.0%】

③ 「Can-Do リスト」の形式による学習到達目標の整備状況
設定【100%】公表【100%】達成状況の把握【100%】

④ 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 50%以上【85.0%】

⑤ 授業における英語担当教員の英語使用状況 50%以上【80%】

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

① 「教員の英語力向上」

各管内で実施する英語担当者指導法研修会において、TOEIC や英検準1級の問題を使って自身の英語力を把握させるとともに、英語力を更に向上させることの必要性を認識させ、英検等の外部検定試験の受験を促す。また、平成28年度から中核教員研修に加えて中学校英語教員ビルドアップ研修に参加した教員は原則としてTOEIC等の受験を義務付け、平成29年度までに取得率50%を目指す。

② 「生徒の英語力向上」

中核教員研修（研修実習）や英語担当者指導法研修会等で、言語活動の在り方や、具体的な指導法についての研修を実施し、教師の指導力の向上を図ることで、生徒の英語力向上を向上させる。また、生徒に自らの英語力の向上を把握させるためにCAN DO リストの活用とともに英検等の外部検定試験の受験を促し、国が示す英語力について平成28年度は36%、平成29年度は50%の達成を目指す。

③ 「Can DO リストの活用」

中核教員研修（研修実習）、英語担当者指導法研修会や県教委主催の各種研修会で「Can-Do リスト」の意義について説明及び協議の時間を設け、各校での活用を強く促進する。平成28年度は主に「生徒保護者への公表」に力を入れ、平成29年度は「達成状況の把握」を重点的に推進する。

④ 「生徒の英語による言語活動時間の割合」

各教育事務所が行う「学校訪問」において、重点指導事項の一つに、「授業における生徒の英語による言語活動時間の割合」の増加を掲げ、県内で統一して指導に当たる。平成28年度は特に必然性のある場面設定を重点的に推進し、平成29年度に掲げる目標達成（85%）を目指す。

⑤ 「英語教員の英語使用状況」

中核教員研修（研修実習）や、中学校英語教員ビルドアップ研修において、演習等を通して英語力・指導力の向上を図り、必然性の高い英語使用を推進する。平成28年度から対話を重視した英語使用を重点的に推進し、平成29年度に掲げる目標達成（80%）を目指す。

更に、毎年「英語教育実施状況調査」を実施することで、教員の英語指導力等について、年次ごとの変容を把握していく。

【高等学校】

県立高校の英語担当教員のうち、求められる英語力の指標である英検準1級以上等を所有する教員の割合は73.2%（平成27年12月1日現在）で、昨年度の53%から大きく伸びた。その一方で、「英語担当教員の授業における英語使用状況」や「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」等の指標は今年度の目標を大きく下回っており、本事業を活用した研修の強化を図っていく必要がある。

【H27 現状値】※主な指標について（「平成27年度英語教育実施状況調査」より）

① 求められる英語力を有する担当教員の割合【73.2%】

- ② 求められる英語力を有する生徒の割合【31.1%】
- ③ 学習到達目標の整備状況
設定【100%】公表【59.1%】達成状況の把握【57%】
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上【36.3%】
- ⑤ 英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上【34.9%】

【H29 目標値】※主な指標について

- ① 求められる英語力を有する担当教員の割合【85%】
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合【50%】
- ③ 学習到達目標の整備状況
設定【100%】公表【100%】達成状況の把握【100%】
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上【75%】
- ⑤ 英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上【100%】

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

- ① 「求められる英語力を有する担当教員の割合」
国の示す目標はほぼ達成しているが、H28 年度も引き続き指導力向上のために教員自身の自己研鑽の必要性があることを強調し、外部検定試験受験を促したうえで、年度末に個々の取得状況について調査する。H29 度は取得状況を参考にしながら研修実習への参加者を選定し、参加教員の英語力と指導力向上に努め、本指標の割合をさらに高める。
- ② 「求められる英語力を有する生徒の割合」
H28 年度から英検準2級レベルを意識した県独自のスピーキングテストの研究開発に取り組み、一部の学校で試行を始める。一定基準をクリアした生徒には、英検等の外部検定試験の受験を促す。H29 年度以降も実施校を増やし、外部検定試験の受験者増を促す。
- ③ 「学習到達目標の整備状況」
H28 年度は県に提出している学習到達目標の見直しを全校に依頼し、再提出を求める。一方で活用状況についても調査し、H29 年度には活用計画及び実施状況報告の提出を全校に求める。
- ④ 「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上」
H28 から H29 年度までを通じて、研修実習や本事業による講演会や研修会により、英語による言語活動の具体的な方法の普及に努める。一方で、学校訪問により英語授業を視察し、適宜、指導助言を行う。
- ⑤ 「英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上」
④の指標と連動するため、手立てについても④と同様とする。授業において教員が始終、英語を話す必要はなく、英語を使う主体はあくまで生徒であることを、各研修や学校訪問による指導を通じて強く認識させる。

また、毎年「英語教育実施状況調査」を実施することで、教員の英語指導力を含めて年次ごとの変容を把握していく。

さらに、研修実習の参加教員については、自発的な自己研鑽を促すために「目標設定・進行管理シート」（別紙3）を使って目標を設定させ、県教育委員会に提出させる。

(3) 研修の体系と内容の具体

【小中学校】

- ① 中核教員研修（4日間：2時間×7セット、大学教授等による演習）
 対象者：小学校40人、中学校40人
 各管内（10管内）からリーダー的立場の教員 小学校4人、中学校4人
 内 容：中央研修で推進リーダーが習得した教授法等を研修参加教員が習得する。また、大学等から講師を招いて講義・演習を行い英語力・指導力を高める。
- ② 英語担当者指導法研修会（1日）
 対象者：各管内 小学校：各1人、中学校：英語担当教員全員
 内 容：中核教員研修参加者が研修内容を生かした研究授業を実施するとともに授業実践を紹介する。また、「Can-Do リスト」の形による学習到達目標に基づいた年間指導計画のあり方について協議したり、英語力・指導力を高めるための演習等を行ったりする。

- ③ 小学校英語教育フォローアップ研修（2日）
 対象者：各管内 小学校教員4人 計40人
 内 容：推進リーダー及び大学等の講師による演習等をとおして、英語力・指導力を高める。
- ④ 中学校英語教員ビルドアップ研修（2日）
 対象者：各管内 中学校英語教員4人 計40人
 内 容：推進リーダー及び大学等の講師による演習等をとおして、英語力・指導力を高める。
- ⑤ 校内研修
 対象者：各学校の英語担当教員
 内 容：各学校において、研修等で学んだことについて実践研究を行う。

以上の研修の評価方法として、年度末に推進リーダーや研修参加教員対象のアンケート調査を行い、意識や指導力の向上の変容について把握する。

推進リーダーの役割

- 中核教員研修の実施【4日間／年】
- 域内研修の実施【1日間／年】
- 小学校英語教育フォローアップ研修の実施【2日間／年】
- 中学校英語教員ビルドアップ研修の実施【2日間／年】
- その他の研修講師

中核教員研修修了者の役割

- 英語担当者指導法研修会での復講【1日間／年】
- 校内研修の実施【適宜／年】
- 外部検定試験（TOEIC等）の受験【1回／年】

【高等学校】

推進リーダーの勤務校を研修協力校とし、研修実習や外部講師を招聘しての講演会や研修会を開催する。

研修実習では、中央研修との整合性・連続性を重視した研修を3日間に分けて14時間（2時間×7セット）実施する。研修参加教員には、各勤務校での校内研修と近隣校にも参加を呼びかけて研究授業を行わせる。校内研修については、研修実施報告書（別紙4）を作成させ、「目標設定・進行管理シート」とともに、年度末に県教委への提出を求める。

外部講師による講演会や研修会については、言語活動やパフォーマンス評価の具体的方法等、ワークショップ形式を主体として実施する。

その他、推進リーダーや研修参加教員に、「外国語指導助手の指導力等向上研修」における分科会で、参加ALT及び英語担当教員への研修講師を務めさせる。

①研修実習（3日間：2時間×7セット）

対象者：研修参加教員（推進リーダー1人につき県立高校英語教員20人程度）

目的：中央研修で推進リーダーが習得した教授法等を研修参加教員に伝授する。

内容：第1回及び第2回は、推進リーダーによる講義を行う。第3回は講義に加え、研修参加教員が各勤務校で使用した教材等を持ち寄り、フォローアップを行う。

②校内研修（6時間程度）

対象者：研修参加教員勤務校の英語担当教員

目的：研修実習で研修参加教員が学んだ内容について復講するとともに、「Can-Doリスト」の形による学習到達目標に基づいた年間指導計画のあり方について協議する。

内容：研修参加教員による講義、年間指導計画の作成等

③研究授業・授業研究会（各研修参加教員1～2回）

対象者：研修参加教員勤務校及び近隣学校の英語担当教員

目的：研修によって授業がどのように改善されたかを検証する。

内容：研究授業及び授業研究会（近隣校（小中高）に参加を呼びかける。）

④外部講師による講演会・研修会（各研修協力校で1～2回）

対象者：県立高校全英語教員

目的：言語活動やパフォーマンス評価の普及を図る。

内容：具体例を多く取り入れたワークショップ

⑤外国語指導助手の指導力等向上研修（2日間）

対象者：外国語指導助手及び小中高の英語（外国語活動）担当教員

目的：外国語指導助手(ALT)及び日本人英語担当者(JTE)のチーム・ティーチングに係る指導力の向上を図る。

内容：外部講師による講演、外国語指導助手・日本人担当教員によるワークショップ等

以上の研修の評価方法として、年度末に推進リーダーや研修参加教員対象のアンケート調査を行い、意識や指導力の向上の変容について把握する。

推進リーダーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ●授業実習の実施（公開授業）【2回／年】 ●研修実習（研修参加教員対象）での講義【3日間／年】 ●県教委主催の研修会での講師【1～2回／年】
研修参加教員の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○研修実習への参加【3日間／年】 ○校内研修の実施【6時間程度／年】 <li style="padding-left: 20px;">研究授業・授業研究会の実施【1～2回／年】 ○外部検定試験の受験【1回／年】

(4) 年間事業計画（上段：小中学校、下段：高等学校）

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	<ul style="list-style-type: none"> 英語担当指導主事会（所長・指導課長・指導主事研修会時） ※本事業の説明及び共通理解 H27 推進リーダー（中学校）選定 H27 推進リーダー（小学校）選定 	
	<ul style="list-style-type: none"> H27 推進リーダー（高等学校）選定 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> H27 推進リーダー（中学校）の派遣＜第1回＞ 	
	<ul style="list-style-type: none"> H28 研修実習参加教員選定 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 推進リーダーとの事前打ち合わせ H27 推進リーダー（小学校）の派遣＜第1回＞ 中核教員研修（小：第1回） 中核教員研修（中：第1回）研修実習 第1回小学校英語教育フォローアップ研修 	大学教授等の講話・演習
	<ul style="list-style-type: none"> 第1回研修実習（H26～27 推進リーダー） 校内研修開始（研修参加教員勤務校） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 英語担当指導主事会（所長・指導課長・指導主事研修会時） ※進捗状況等の確認 第1回中学校英語教員ビルドアップ研修 	
	<ul style="list-style-type: none"> H28 推進リーダー（高等学校）中央研修＜第1回＞ 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 中核教員研修（小：第2～3回） 中核教員研修（中：第2～3回）研修実習 	大学教授等の講話・演習
	<ul style="list-style-type: none"> 第2回研修実習（H26～27 推進リーダー） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月）※中核教員研修参加者による復講等 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> H27 推進リーダー（中学校）の派遣＜第2回＞ 各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月）※中核教員研修参加者による復講等 	
	<ul style="list-style-type: none"> 第3回研修実習（H26～27 推進リーダー） 外部検定試験受験（研修参加教員） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> H27 推進リーダー（小学校）の派遣＜第2回＞ 中核教員研修（小：第4回） 中核教員研修（中：第4回）研修実習 各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月）※中核教員研修参加者による復講等 第2回小学校英語教育フォローアップ研修 	大学教授等の講話・演習 大学教授等の講話・演習
	<ul style="list-style-type: none"> 研修協力校での研修会 研究授業・授業研究会の実施（各研修参加教員の勤務校） 	大学教授等の講話・演習
12月	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育実施状況調査の実施 各管内（10管内）での英語担当者指導法研修会（9～12月）※中核教員研修参加者による復講等 	
	<ul style="list-style-type: none"> H28 推進リーダー（高等学校）中央研修＜第2回＞ 外国語指導助手の指導力等向上研修 	大学教授等の講話・演習

1月	・第2回中学校英語教員ビルドアップ研修	大学教授等の講話・演習
	・研修協力校での研修会	大学教授等の講話・演習
2月	・本年度取組の反省、次年度への志向 ・H29 推進リーダー（小中学校）の選考	
3月	・本年度取組の反省、次年度への志向 ・H29 推進リーダー（小中学校）の選考	
	・「目標設定・進行管理シート」及び「校内研修実施報告書」の提出（研修参加教員）	
【その他の取組】 ・県教委主催の研修会や県立教育センターでの研修等、推進リーダーや外部講師を招いての英語指導力向上に関する研修を適宜実施。（高等学校）		

※政令市は除く

(様式10)目標管理書

都道府県等 教育委員会名	熊本県教育委員会
-----------------	----------

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	現状値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	49.7	56	53	62.3	73.2	80		85	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	32.9	37.2	36.3	41.5	31.1	45.8		50	
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	100	100	100	100	100	100		100	
		公表(%)	100	100	57.1	100	59.1	100		100	
		達成状況の把握(%)	4.6	25	47.1	50	57	75		100	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	28.3	40	34.8	51.7	36.3	63.4		75	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況				1	1	2		3	
		スピーキングテスト(回)				1	1	2		3	
						1	0.5	2		3	
						0.75	1	1		1.5	
						0.5	0.5	0.75		1	
		ライティングテスト(回)				0.5	1	0.75		1	
						0.5	0.8	0.75		1	
						0.5	0.8	0.75		1	
						0.75	1.3	1		1.5	
						0.75	1.6	1		1.5	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	40.5			70	34.9	85		100		
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数		5	3	10	3	15		20		
	研修受講者数		70	20	140	75	210		280		

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	現状値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	26.9		25.7	35	28.4	38		50	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	24.2		27.9	30	26	36		50	
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	20.3		37.3	100	99.2	100		100	
		公表(%)	2.3		10.6	50	17.8	80		100	
		達成状況の把握(%)	80.8		55.3	80	60.2	80		100	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	56.9		69.6	75	76.9	80		85	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況				3.5	3.1	4		5	
		ライティングテスト(回)				3	2.3	3.5		4	
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	43.3			60	61.9	70		80	
	⑧	英語担当教員に対する研修実施回数				8	5	8		8	
	研修受講者数				300	310	300		300		

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	現状値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	⑦	相応の英語力を有する小学校教員の割合(%)								5	
	⑧	小学校教員に対する研修実施回数				8	5	8		8	
		研修受講者数				270	380	270		270	

独自	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	現状値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	⑨	英語が「好き」(「とても好き」+「まあまあ好き」と答える生徒の割合(%)	50.1	51.1	52.3	53.3	50.3	54.3		55.3	
	⑩	英語が「分かる」(「よく理解できている」+「まあまあ理解できている」と答える生徒の割合(%)	49.4	50.4	51.2	52.2	50.1	53.2		54.2	
		以上、熊本県学力調査(生徒質問紙調査)結果から									

※政令市は除く